

No. 345 2023年11月07日

日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221 / fax 218-5124

子ども読書推進のため小学校に司書配置を

10月24日 決算特別委員会 小形かおり委員

小形市議は札幌市の教育ビジョンである「自立した札幌人」を育てていくための具体的な施策の一つになっている読書活動推進に関連し、学校図書館のさらなる拡充を求めました。

小形市議は2013年度に初めて中学校に専任司書を配置、2019年度、全ての中学校に配置したことについて「現状はどのようになっているのか。専門性の発揮はどのような形で表れているのか」と質問。長谷川学校教育部長は「現在は、89名が全ての中学校の学校図書館運営を支えている。本の貸し出し機会が増える、昼休みや放課後等の触れる機会が増えるという、学習センターとしての機能ということでも非常に専門性を発揮している」と答弁をしました。これを受けて小形市議は「小学校にも学校司書を配置するべきだと考えるが、いかがか」と質問。長谷川部長は、小学校への学校司書の配置について、開放司書や学校図書ボランティアの方々が関わっていることなどを挙げ、「こうした現状を踏まえ、小学校への学校司書の配置については、今後も引き続き慎重に検討してまいりたい」と答弁しました。

小形市議は最後に「子どもが読書に親しむ機会を増やすためには学校図書館の役割は大事。小学校司書の配置は急がれる課題。前向きに検討され、予算をつけるなど、一步前進を」と求めました。

就学援助の基準額設定や支給品目拡充を

10月24日 決算特別委員会 田中啓介委員

就学援助制度のあり方や支給品目の拡充を求めて田中市議が質問に立ちました。

田中市議は最初に、収入が同じ子育て世帯であっても、「子どもの学齢が高い世帯の経済的負担はより重く、経済的な援助が必要になると思います。どうお考えか」と質問。長谷川学校教育部長は「就学援助における認定基準額の設定のあり方につきましては必要に応じて検討を行ってまいりたい」と質問内容について深く触れませんでした。田中市議は重ねて「世帯人数だけではなくて、子どもの学齢なども考慮した対象の認定にすること、これを検討する必要があるのではないか」と指摘しました。

続けて田中市議は「コロナ禍、物価高騰により、就学援助世帯の経済的影響が大きくなっている。負担軽減のために、クラブ活動費、PTA会費、生徒会費の追加に努めるべきという、就学援助審議会の答申に対して、このクラブ活動費、PTA会費を支給費目に追加することの必要性について、今どう検討されているのか」と質問。長谷川学校教育部長は「支給品目の追加につきましては、社会情勢等を踏まえながら、引き続き検討を行ってまいりたい」とまた質問の内容に深く触れませんでした。これを受けて田中市議は「PTA会費、クラブ活動費、また、卒業アルバム代を支給品目に追加した場合、それぞれどれだけの費用が必要なのか」と質問。長谷川学校教育部長が「約2700万円の見込みとなります。」と答弁したことを受けて、田中市議は最後に「約2700万円程度ですから、不用額に収まるぐらいの金額。更なる改善で、子育て世帯の負担軽減を進めていくように」と求めました。